

第35回情報理論とその応用シンポジウム (SITA2012) 予稿集 原稿様式

How to Write a SITA2012 Manuscript

SITA2012 事務局*
SITA2012 Secretariat

Abstract— This document provides information on a SITA 2012 manuscript.

Keywords— SITA2012, L^AT_EX, style file

1 はじめに

本稿には、SITA2012 予稿集の原稿の作成・提出に関する情報が記載されています。

2 CDROM 予稿集用原稿の作成

投稿された PDF 原稿ファイルをそのまま CDROM に収録して予稿集を作製します。また、原稿の著作権は、電子情報通信学会に帰属します。シンポジウム Web サイト (<http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2012/>) に掲載してある注意事項を厳守して、PDF 原稿を作成して下さい。

2.1 様式

- サイズ A4 判 (縦 297mm, 横 210mm)
- 論文題目, 著者名, あらまし, 本文等全てを含み最大 6 頁
- 印刷時の上余白 25mm 以上, 下余白 20mm 以上, 左右余白 17mm 以上
- 2 段組, 10pt 程度の文字
- PDF ファイル容量 3MB 以下

SITA2012 原稿の L^AT_EX スタイルファイルが SITA2012 ホームページ

<http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2012/>

より入手できます。

2.2 ヘッダ

PDF 原稿の第一頁において、上余白 9mm(以上) 右余白 9mm(以上) だけ、7pt 程度の文字で

The 35th Symposium on Information Theory
and its Applications (SITA2012)
Beppu, Oita, Japan, Dec. 11–14, 2012

と記入して下さい。スタイルファイルを使用している場合、このヘッダは自動的に挿入されます。

* 〒 819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744 九州大学大学院システム情報科学研究院情報学部門内 SITA2012 事務局 SITA2012 Office, Department of Informatics, Graduate School of Information Science and Electrical Engineering, Kyushu University. 744, Motooka, Nishi-ku, Fukuoka, 819-0395, Japan. E-mail: sita2012@me.inf.kyushu-u.ac.jp

2.3 第一頁に記載する事項

第一頁に次の事項を記載してください。

1. 本文が和文のとき

- 論文題目 (和文と英文の両方)
- 著者名 (和文と英文の両方)
- 著者の所属, 所在地 (和文と英文の両方)
- あらまし (約 100 語の英文)
- キーワード (英文で 3~5 個)

なお、和文のあらましとキーワードは必要ありません。

2. 本文が英文のとき

- 論文題目 (英文)
- 著者名 (英文)
- 著者の所属, 所在地 (英文)
- あらまし (約 100 語の英文)
- キーワード (英文で 3~5 個)

2.4 カラー, 写真について

SITA2012 予稿集は、CDROM で発行しますので、カラー (写真) の使用も可です。ただし、白黒印刷をして利用することも考えられますので、白黒印刷でも内容の把握が可能であるようご配慮ください。

3 論文投稿方法について

原稿は PDF ファイルでご用意下さい。論文原稿は発表申込専用サイト (https://www.gakkai-web.net/gakkai/sita/sita_ab/index.html) で受け付けます (SITA2012 ホームページ <http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2012/> よりリンクが張ってあります)。

論文投稿システムに関するお問合せは、
sita2012-submit@cm.info.hiroshima-cu.ac.jp
までお願い致します。

3.1 注意事項

原稿が指定の様式を満たしていることを確認して下さい。なるべく複数のシステムで PDF 原稿が閲覧・印刷できることを確認しておくことと確実です。

文献

- [1] SITA2011 Secretariat, “How to write a SITA2011 manuscript,” The 34th Symposium on Information Theory and its Applications, 2011.